

Chiba Rosai News

千葉ろうさいニュース

Vol. 1

平成26年1月1日



目次

- ② 新年のごあいさつ
院長 河野 陽一
- ・ 私たちがめざすもの
副院長 由佐 俊和
副院長 山縣 正庸
事務局長 清水 紀行
看護部長 青田 孝子

- ④ 病氣と向きあう
石綿によるがん
- ⑤ 患者さんとのつながり
ひまわり会
- ⑥ ろうさい Mini News
新棟完成記念コンサート
半日人間ドックをうけてみませんか
元気な職員大募集

- ⑦ 連携登録医のご紹介
永吉の眼科
- ⑧ 当院の理念
リハビリ美術館

新年のご挨拶



こうの よういち
院長 河野 陽一

新年あけましておめでとうございます。

今年も千葉労災病院は、地域に根差した、そして安心のできる医療を提供してまいります。昨年は新診療棟が完成し、新たな医療の1ページが開かれました。病棟の新築のみならず最新の医療機器を配備しましたが、施設・設備が新しくなったばかりではありません。ICU(集中治療室)の整備などにより、病院機能もさらに充実しました。

わが国の医療は、出生数の減少と高齢人口の増大による人口構成の変化により、大きな転換点を迎えています。市原市においても高齢化が進み、今後医療のニーズが高まることは間違いありません。千葉労災病院はこのような社会の流れに柔軟に対応すべく、診療体制の見直しも進めており、皆様の頼りになる地域医療を目指しています。

今年は外来棟の改修工事が予定されており、皆様方にはご不自由をおかけすることと存じますが、安心して質の高い医療サービスの整備のために、ご協力のほどよろしく願いいたします。

職員一同、患者の皆様のご健康を守るという責務に全力を挙げて取り組んでまいります。

今年も皆様にとって佳い一年でありますようお願い申し上げます。



私たちがめざすもの



ゆき としかず
副院長 由佐 俊和

方向として、急性期、回復期、慢性期といった病院の機能分化は一層明確になるでしょう。市原市を中心とする医療圏では、千葉労災病院は急性期医療を担うことのできる病院として、住民にとって今後も信頼され、必要とされる病院であると考えます。急性期医療を担う病院として、質と安全に関してさらに高度な医療を実践できる病院を目指すべきと考えます。

産業の高度化・複雑化に伴って、メンタルヘルスをはじめとした新たな勤労者の健康障害が増加しています。当院は、労働者健康福祉機構傘下の医療機関として、勤労者医療の推進という国の政策医療を担っています。勤労者の健康を守るための予防を含めた医療は、今後その重要性が増すことなのでしょう。当院の役割はますます大きくなるものと思います。

医療をめぐる情勢はめまぐるしく変化しています。これまでの既定路線に安住するのではなく、これからは時代と地域の要請に的確に対応していくだけの柔軟性と活力を持った病院でなければならないでしょう。そして、当院で働く全職員にとって、働き甲斐と誇りの持てる病院を目指したいと思います。

新病棟が完成し、新しい手術室での診療が開始されました。スタッフ一同、より質の高い医療を提供できるように研鑽をしています。

しかし、病院が新しくなり、また優秀なスタッフが増員されても私たちの周りの患者さんの健康度がまた生活の質が上がるのでしょうか。今、当院が目指すものは地域の皆さんの健康の質を上げることです。病院・診療所間の連携の質を今よりも質の高いものにしなければなりません。当院と地域の診療所が同じカルテを使用し共通の画像診断や、投薬が可能になることです。

患者さんの共通のカルテを持つためにはこの地域全体の患者情報システムが完成しなければなりません。これは早くに実現可能な未来です。そして共通の患者情報から病気の進行の予防、発生の予防につなげることが大切です。現在までにこの地域の皆様の平均寿命は確かに延びてきました、しかし他人の介助を必要としない、自分の足で動けるといふ健康寿命が延びて初めてこの地域の健康の尺度が日本一になるのだと思います。目指すは日本一の健康です。



当院がこの地に開院してもうすぐ(H27.2)50周年を迎えようとしています。これまでの長い間、辰巳台地区はもちろんのこと市原市内や周辺の皆様に支えられて、現在に至っています。

最近、ある会合で、「辰巳台地区の人たちは、千葉労災病院のミドリ十字のネオンサインに守られている。」という言葉頂きました。こんなに地元の人たちに頼りにされていると思うと感慨深く、これからも皆様の期待を裏切ることのないようますます頑張らねばという思いを強くしました。

また、この機に全面改築工事も進行しており、計画では来年度末(H27.3)には全面的に完成する予定です。「仏作って…」にならぬよう、ソフトの面でも改善して行くべきところをしっかりと見極め、少しでも利用して頂きやすい、また一層頼りにされる病院を目指します。

マネジメントあるいはチーム医療という視点から見たときに、看護の役割がキー的存在になると考えています。患者さんと接している時間がいちばん長いのが看護師です。医師の役割はもちろん欠かせませんが、それはあくまで患者さんの診断や治療を行うという「点」としての関わりで、それに対して看護師は、いわば「面」で患者さんに接しています。このことは糖尿病などの生活習慣病の治療や、がんのターミナルケアにおけるペインクリニックなど、医療の中で占める割合が大きくなってきている治療において、広く患者さんの日常生活に配慮しつつ「面」で接していける看護師の役割がますます重要になってきていると言えます。また、経営の視点からも、看護師が患者満足度にとってキー的存在になってきます。

そのような中で私たち看護部はまず「自立」することを意識します。この中には自らを律する「自律」の意味も含まれます。患者さんとの接点がいちばん多いわけですから、いろいろなことを患者さんから尋ねられたりします。自分で対応できること、また対応すべきことにはその場で答えます。そのためには判断力や采配のバランス感覚を身につけていくことが必要です。これからは今まで以上に状況を見据えたうえで、看護師がより自立する時代がきていると考えています。



石綿によるがん

— 中皮腫と肺がん —

石綿(アスベスト)は、繊維状の鉱物ですが高熱や摩擦に強く、しかも安価なため、日本では1970年代から80年代の高度経済成長期に多量の石綿が輸入され、建材や自動車部品など様々な分野で使用されました。

石綿繊維は呼吸によって肺に取り込まれると肺内に長期間残留し、様々な疾患の原因となります。中でも、中皮腫と肺がんは石綿ばく露によって発生する悪性腫瘍(がん)で、10年ほど前から年毎に増加しています。

中皮腫は、胸膜や腹膜に発生するがんです。中皮腫の殆どは石綿が原因とみられ、石綿ばく露後、20年～50年後に発生します。日本では、2012年の1年間で1,400の方が中皮腫のために亡くなりました。わが国の過去の石綿使用量からみて、今後、中皮腫の患者数はさらに増加するものと推測されています。

肺がんは、たばこをはじめとして様々な原因によって発生しますが、石綿もその原因の一つです。石綿のばく露開始後、30年～50年後に発生します。中皮腫に比べ、より高濃度の石綿ばく露を受けた方に多いのですが、肺がん発生の危険性は喫煙によって一層高くなります。

中皮腫も肺がんも放置すると命にかかわる疾患です。早期に発見して適切な治療を受けることが大切です。

1970年代から80年代に建設、造船、配管・保温工事などに従事した方は石綿ばく露を受けている可能性が有ります。石綿ばく露業務に従事していた方は、中皮腫や肺がんの発生リスクが一般人に比べ高いので、そのような方を対象とした「石綿健康管理手帳健診」という国の健診制度があります。

石綿ばく露業務に従事していた方で、一定の要件を満たす方は「石綿健康管理手帳」の交付が受けられ、無料で健診を受けることが出来ます。この健診は、胸部レントゲン写真などによる検査を半年毎に行いますが、異常が疑われた場合はさらにCTなどの精密検査をして、早期発見をめざしています。

千葉労災病院の「アスベスト疾患センター」では、「石綿健康管理手帳健診」を行っています。既に多くの方が受診され、これまでに早期肺がんの患者さんを10人以上発見し、治療しています。過去に石綿ばく露業務に従事していた方で、胸部レントゲン健診を受けていない方は、当院の「アスベスト疾患センター」にご相談下さい。



副院長 由佐 俊和

患者さんとのつながり

糖尿病患者会 ひまわり会

糖尿病患者会「ひまわり会」は、千葉労災病院で糖尿病の治療を受けている患者さん及びその家族と、医師、看護師、管理栄養士、薬剤師、臨床検査技師、理学療法士の糖尿病診療スタッフが糖尿病の理解を深める為に、平成9年糖尿病・内分泌内科部長の三村先生の指導でスタートしました。事務局を栄養管理部に置き、同年には本会の規約が作成され、糖尿病に関する正しい知識の普及啓発、糖尿病患者様及びその家族の療養指導に関わる中で、糖尿病患者様のQOLの向上の手助けをして行き尚且つ健康の増進に寄与すると同時に、糖尿病患者様及びその家族とスタッフとの懇親を深めることを目的に活動しています。平成25年度会員数は患者様64名、スタッフは23名(医師4名、看護師9名、薬剤師2名、臨床検査技師5名、管理栄養士3名)、発足当初は28名から始まった会は、現在では87名の会となり、院内外の患者様や医療スタッフに対しても広域的に受け入れを行い糖尿病治療の貢献に努めております。

年間事業内容は、糖尿病の予防及び治療に関する知識の普及啓発、糖尿病の患者様及び家族に対する療養指導や糖尿病の予防及び治療に関する勉強会として年2回、糖尿病月刊誌「さかえ」を読む会を開催。また、糖尿病の治療に欠くことのできない食事療法の取り組みとして、バス旅行を兼ねた「ヘルシーメニュー食事会」、また同じく糖尿病治療に必要なとされている運動療法につきましても、日本糖尿病協会千葉県支部共催の、千葉市青葉の森公園で開催される「歩いて学ぶ糖尿病ウォークラリー」の参加、当院で企画実施している「歩く会」、「運動教室」では、元武道大学学長の篠田基行先生を講師に迎え、楽しみながら気軽に出来る在宅運動教室を開催しています。これら行事につきましても、広く声をかけさせていただきますので、お気軽に参加くださいますようお願いいたします。

今後も会の行事を通して当院スタッフと他病院のスタッフ間及び患者同士が交流を深め、安心して糖尿病の療養生活が送れるよう支援し、患者様の喜ぶ笑顔を励みにスタッフで取り組んで行きたいと考えます。



歩く会



ひまわり会のみなさま

ひまわり会

患者さん相互及び病院スタッフとの交流のためのサロンです。病気の改善に向けた情報交換と励ましのみならず各種イベントを通じた親睦の場でもあります。ご入会をご希望されます患者さんは、診療棟1階の栄養管理部にお申し付け下さい。

【栄養管理部】

TEL: 0436-74-1111 内線11300

入会費: 無料 年会費: 3,700円

会員の方には栄養指導室で毎月「さかえ」冊子を無料で配布致します。

*「さかえ」

糖尿病の治療に関する情報が満載されています

患者さんからの声

患者さんから

採血の受付を従前の整理番号制に戻してほしい。今までは6時45分に採血室前に出された番号札を取った順に採血の受付がなされていましたが、新しく発券機が設置されたために7時45分に再来受付機に並ばなくてはならなくなりました。

病院から

これまでの番号札の配布から採血までの長い待ち時間を解消するため、また、新診療棟への移転後は、体制の変更及び検査システムの更新により、採血から検査結果が出るまでの時間が短縮されたことから、すべての患者さんが診察1時間前に採血を受けていただければ順番待ちの必要がなく、8時前から病院内でお待ちいただく必要性が乏しいと考え、従前の整理番号制を廃止いたしました。

ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。



高綱陽子 眼科部長

ウ交響楽団と共演なさり、国内でも多数のリサイタルなどで活動をされています。

「音楽は心に元気をあたえてくれます。皆様に心地よい時間となりますように。」

高綱部長からは、音楽がストレス解消になり、手指のトレーニングにも役立つと眼科医ならではのピアノの効能とともに、数曲を披露していただきました。

大変和やかな1時間となり、多くの外来患者さん、入院患者さんには、ほんのひとつきではありますが、心地よいお時間になっていただけました。

新棟完成記念コンサートを開催しました

11月27日診療のほぼ終了した夕方の病院玄関ホールにて、ピアノコンサートが開催されました。

今回は、当院眼科部長高綱陽子先生とピアニスト近藤和花さんの演奏でした。

近藤和花さんは、千葉市在住のピアニストで、国内外のコンクールでの素晴らしい実績をお持ちになり、2012年には、ルーマニアにてルーマニア国立バカ



ピアニスト 近藤和花さん

半日人間ドックをうけませんか？

当院では半日で終わる人間ドックを行っております。日頃、健康に自身がある方も検査してみると隠れた身体の異常が発見されることもあります。

当院の「半日人間ドック」を利用して、健康管理、健康増進にお役立てください。

半日人間ドック基本コース料金 42,000円(税込)

基本 コース 内容	問診、内科検査	身体測定	胃カメラ	
	血液検査	尿検査	便検査	聴力検査
	胸部X線	超音波検査	眼科検査	など

子宮頸癌検査、前立腺検査などのオプションも用意していますので、お気軽に当院健康診断部までお問い合わせください。

☎0436-74-1111 内線3153

元気な職員大募集！

当院では一緒に働く元気な仲間を募集しています

募集職種

看護師、助産師、
看護助手、管理栄養士 など

詳しくは当院ホームページをご覧ください
 だか、電話にてお問い合わせください

千葉労災病院ホームページ
<http://www.chibah.rofuku.go.jp>

☎0436-74-1111

総務課人事担当まで

連携登録医のご紹介

永吉の眼科

院長 千葉 彌幸 先生



新診療棟オープンおめでとうございます。

私は昭和44年からしばらくの間パートとして、眼科外来や手術のお手伝いをし、また安達千葉大学名誉教授のご指導により、労災病院の機器を使って眼科電気生理の研究をしました。以来、労災病院とは長いお付き合いになります。

茂原市の「永吉の眼科」は寛政6年(1794年)千葉東寿が現在の地に漢方での眼科を開院し、私で8代目になります。現在でも茂原駅から4キロほど南の田園地帯で交通の便が悪いのですが、当時は眼科医が少なく患者さんはかなり遠方から泊まりがけで来院していました。明治に入り5代目の千葉天夢は東京帝国大学を卒業し、西洋医学による眼科を始める一方、現在の長生高校、茂原高校を創設したり、天然ガスの採掘を手がけたりして地元へ貢献しました。

現在、労災病院には主に白内障の手術や糖尿病網膜症の患者さんを紹介させていただいており、高綱先生、水鳥川先生をはじめスタッフの皆様にご大変お世話になっております。当院から紹介した患者さんが「とても親切にいただいた」と喜んでおり、手術結果も大変良好なので安心してお願いしております。

このたび診療棟を新築され、眼科を含め千葉県医療全体に果たす大きな役割がますます充実したことは、地域医療を担うものとしても大変嬉しいことです。病院のご発展を心から願っております。



永吉の眼科 診療案内

〒297-0036 千葉県茂原市上永吉732
☎0475-22-5459

	月	火	水	木	金	土	日・祝
8～11時	○	○	○	休診	○	○	休診
14～17時	○	休診	○	休診	○	○	休診

火曜日の午後は特殊検査と手術、専門外来(予約制)を行っています。



千葉労災病院 理念

基本理念

私たちは、地域の人々・勤労者から最も信頼される病院をつくります。

基本方針

- 一、患者さんの権利を尊重します。
- 二、安全で質の高い医療を提供します。
- 三、地域の基幹病院として医療連携に努めます。
- 四、急性期医療・予防医療を担います。
- 五、良質な医療人の育成をはかります。
- 六、健全経営を行い、明るく向上心に満ちた職場をつくります。

リハビリ美術館

当院には患者さんによる作品を集めた美術館があります



「ちぎり絵」

作／泉水弘子さん

編集後記

このたび、当院の広報誌としての「辰巳のまど」を「Chiba Rosai News」としてリニューアルさせていただくことにいたしました。現在、当院では、外来棟の増改築工事が進んでおります。辰巳台に位置する当院ですが、辰巳台のみならず、より広い地域からのニーズにお応えできるよう、広報誌の装いも新たに再出発していきます。院内での様々な取組をご紹介します、皆様に役立つ誌面づくりを目指していきます。

広報委員会 高綱陽子(眼科部長)